

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4602		
科目名	ゼミナールⅡ		
担当教員	山下 博之		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 5		
講義室	1313	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-G [状況把握力・判断力] 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-F [探求力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP6-K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L [協働力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M [省察力] 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状況に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門技能（5%） G 1 状況把握（5%） H 2 批判的思考（10%） F 1 探求と論拠（20%） I 1 理解・分析と読解（15%） K 1 ライティング・コミュニケーション（15%） K 2 オーラル・コミュニケーション（15%） L 1 チームワーク（10%） M 1 総合的・応用的学修（5%）		
教員の実務経験	2009年から2015年にかけて消防庁所管のシンクタンクの研究員として、国、地方自治体の防災政策及び消防政策に関する調査、研究業務に従事してきました。2018年度には、消防庁の「国民保護に関する懇話会」の委員を務めました。また、2019年度以降は栃木県中小企業団体中央会による「災害時応援協定締結支援事業」（栃木県委託事業）の講師・アドバイザー役として、各種中小企業の災害時応援協定及びBCPの取り組みを支援しています。これらの業務を通じて得られた実務上の知見や経験を活かし、本講義を展開していきます（第1回～第15回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット区分：能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		

科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。 ここでは、卒業論文につながる個人研究に関する研究手法、調査方法などを確立するために、その学術的方法論の検討と指導を行います。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■ キーワード 防災・減災、政策リサーチ、リサーチクエストと仮説、資料・データ、共同研究
授業の趣旨	■ 副題 「災害」や「防災・減災」を通じて社会問題について考え、またそれを解決する方法や解決の手がかりまたは問題そのものに対し客観的、論理的に迫っていく力を養います。 ■ 授業の目的 本ゼミの目的は次の4つの点です。 ・災害に対する国、自治体、企業、地域、個人の取り組み、あるいは災害現象そのものに関する理解を深めること。 ・災害や防災・減災政策の研究を通じてわが国の（あるいはグローバルな）政治・社会・経済、文化を学ぶこと。 ・「研究」に関する基本的な方法論やルールを学び、学んだことを卒業論文で実践すること。 ・研究及び研究以外のあらゆるゼミ活動を通じて、就職活動や就職後に必要なスキルを鍛錬すること。 ■ 授業のポイント 国、自治体などの行政機関、企業組織や地域住民など災害対策を検討、あるいは実践する組織や集団について学び、研究することは、災害対策そのものや災害現象について直接的に学び、研究するのと同様に重要なことです。本授業では「災害」や「防災・減災」について学び、研究しながら、「災害」や「災害対策」の背景にある社会問題について考え、またそれを解決する方法や解決の手がかりまたは問題そのものに対し客観的、論理的に迫っていく力を養います。
総合到達目標	■ 旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・自らが作成した研究計画を説明することができる（第1回～第15回）。 ・自らが作成した研究計画に基づいて仮説を検証することができる（第1回～第15回） ・自らの研究の途中経過について説明することができる（第1回～第15回）。 ・自らの研究に関連する文献を自ら収集し読むことができる（第2回～第15回） ■ 授業を通じて他者とコミュニケーションをとることができる。 ・文献を要約し発表するためのレジュメを作成することができる（第2回～第4回） ・基本的な文章執筆のルールに従いレポートを作成することができる（第5回～第7回） ・読みやすさ、見やすさを意識しながら発表用の資料を作成することができる（第2回～第4回） ・発表の際、聞き手の反応を意識しながら発表することができる（第2回～第15回） ・発表に対する自分なりの意見や質問を述べることができる（第2回～第15回）。
成績評価方法	■ レジュメの作成・報告 2回（25%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2 （評価の観点）報告すべきこと（文献の内容、自分の研究内容等）についてのポイントが押さえられたレジュメ・パワポかどうか、分かりやすいレジュメ・パワポかどうか、聞き手が理解できるよう報告できているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）発表時にその都度、ポイントを押さえられているかどうか、レジュメ・パワポ内容または口頭による説明の分かりやすさ等についての評価を行い、アドバイスします。 ■ ミニ・レポートの作成・提出 2回（20%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2 （評価の観点）自ら設定した問いの適切さ、レポート内で展開する議論の論点及び議論の軸の明確さ、論理の矛盾や飛躍の有無、議論の客観性及び裏付けとなる根拠の有無、議論の客観性及び根拠を確保する上で十分な文献・資及・データ等の収集・読解の可否等について評価します。 （フィードバック方法）発表時にその都度、議論の論点及び議論の軸の明確さ、論理の矛盾や飛躍の有無、議論の客観性及び裏付けとなる根拠の有無、議論の客観性及び根拠を確保する上で十分な文献・資及・データ等の収集・読解の可否等についての評価を行い、アドバイスします。 ■ 共同研究論文の執筆・提出 1回（25%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1 （評価の観点）自ら設定した問いの適切さ、論文内で展開する議論の論点及び議論の軸の明確さ、論理の矛盾や飛躍の有無、議論の客観性及び裏付けとなる根拠の有無、議論の客観性及び

	根拠を確保する上で十分な文献・資及・データ等の収集・読解の可否等について評価します。 (フィードバック方法) 途中経過報告時と提出後に、議論の論点及び議論の軸の明確さ、論理の矛盾や飛躍の有無、議論の客観性及び裏付けとなる根拠の有無、議論の客観性及び根拠を確保する上で十分な文献・資及・データ等の収集・読解の可否等についての評価を行い、アドバイスします。 ■授業参加度 15回(30%)：適用ループリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1 (評価の観点) 上記のレジюме・パワポ・レポート等の報告者が行った報告について自分なりに考察し、意見及び疑問を提示しているかどうか等について評価します。 (フィードバック方法) その都度、質問や意見の内容等について評価しアドバイスします。	
履修条件	『社会調査法』、『災害対策論』を履修していることが望めます。	
履修上の注意点	・報告や議論に積極的に参加してください。 ・無断欠席は厳禁。欠席する場合は、教員に直接連絡をしてください。 ・フリーライド(ただ乗り)は認めません。ゼミ活動への積極的な貢献が望めます。	
授業内容	回	内容
	1	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：研究論文を読んでもみる(1) 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジюмеにまとめ輪読します(E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・ミニレポートテーマ：防災教育 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います(E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・共同研究テーマ：途中経過報告(1) 共同研究の途中経過についてレジюмеにより報告し、全体で討議します(E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習(180分) ・各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・グループごとに共同研究の途中経過をレジюмеにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジюмеを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習(60分) ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。 ・共同研究の途中経過報告で受けた指摘をもとにレジюмеを修正、更新しておく。
	2	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：研究論文を読んでもみる(2) 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジюмеにまとめ輪読します(E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・ミニレポートテーマ：災害と企業 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います(E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・共同研究テーマ：途中経過報告(2) 共同研究の途中経過についてレジюмеにより報告し、全体で討議します(E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習(180分) ・各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・グループごとに共同研究の途中経過をレジюмеにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジюмеを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習(60分) ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。 ・共同研究の途中経過報告で受けた指摘をもとにレジюмеを修正、更新しておく。
	3	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：研究論文を読んでもみる(3) 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジюмеにまとめ輪読します(E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・ミニレポートテーマ：災害と医療 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポー

	ト内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：途中経過報告（3） 共同研究の途中経過についてレジюмеにより報告し、全体で討議します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習（180分） ・各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・グループごとに共同研究の途中経過をレジюмеにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジюмеを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。 ・共同研究の途中経過報告で受けた指摘をもとにレジюмеを修正、更新しておく。
4	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：研究論文を読んでみる（4） 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジюмеにまとめ輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・ミニレポートテーマ：災害と福祉 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：研究発表準備（1） 三茶祭の共同研究発表内容についてパワーポイントのたたき台をもとに報告し、全体で討議します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習（180分） ・各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・グループごとに共同研究の途中経過をレジюмеにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジюмеを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。 ・パワポによる報告で受けた指摘をもとにパワポを修正、更新しておく。
5	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：研究論文を読んでみる（5） 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジюмеにまとめ輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・ミニレポートテーマ：災害と地域コミュニティ 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：研究発表準備（2） 三茶祭の共同研究発表内容についてパワーポイントのたたき台をもとに報告し、全体で討議します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習（180分） ・各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・グループごとに共同研究の途中経過をレジюмеにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジюмеを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。 ・パワポによる報告で受けた指摘をもとにパワポを修正、更新しておく。
6	① 授業テーマと概要 ・ミニレポートテーマ：災害と家族 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：研究発表準備（3） 三茶祭の共同研究発表内容について最終的なパワーポイント案をもとにリハーサルを

	行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習（180分） ・各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・グループごとに共同研究の途中経過をレジюмеにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジюмеを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。 ・パワポによる報告で受けた指摘をもとにパワポを修正、更新しておく。
7	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：研究論文を読んでみる（6） 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジюмеにまとめ輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・ミニレポートテーマ：災害と子ども 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：途中経過報告（4） 共同研究の途中経過についてレジюмеにより報告し、全体で討議します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習（180分） ・各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・グループごとに共同研究の途中経過をレジюмеにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジюмеを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。 ・共同研究の途中経過報告で受けた指摘をもとにレジюмеを修正、更新しておく。
8	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：研究論文を読んでみる（7） 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジюмеにまとめ輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・ミニレポートテーマ：災害と女性 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：途中経過報告（5） 共同研究の途中経過についてレジюмеにより報告し、全体で討議します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習（180分） ・各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・グループごとに共同研究の途中経過をレジюмеにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジюмеを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。 ・共同研究の途中経過報告で受けた指摘をもとにレジюмеを修正、更新しておく。
9	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：研究論文を読んでみる（8） 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジюмеにまとめ輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・ミニレポートテーマ：災害と高齢化 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：共同研究論文の構成（1） ここまでの共同研究の成果を踏まえて執筆する共同研究論文の構成について報告し、全体で討議します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。

	・実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習（180分） ・各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・グループごとに共同研究の途中経過をレジюмеにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジюмеを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。 ・共同研究論文の構成（目次）案で受けた指摘をもとに修正、更新しておく。
10	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：研究論文を読んでもみる（9） 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジюмеにまとめ輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・ミニレポートテーマ：災害に関わる計画 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：共同研究論文の構成（2） 共同研究の途中経過についてレジюмеにより報告し、全体で討議します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習（180分） ・各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・グループごとに共同研究の途中経過をレジюмеにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジюмеを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。 ・共同研究論文の構成（目次）案で受けた指摘をもとに修正、更新しておく。
11	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：研究論文を読んでもみる（10） 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジюмеにまとめ輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・ミニレポートテーマ：災害に関わる法律 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：共同研究論文（たたき台）の作成（1） 共同研究論文の各章節項の概要をまとめたたたき台を作成、論文の概要について報告し、全体で討議します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習（180分） ・各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・グループごとに共同研究の途中経過をレジюмеにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジюмеを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。 ・共同研究論文（たたき台）で受けた指摘をもとに修正、更新しておく。
12	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：研究論文を読んでもみる（11） 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジюмеにまとめ輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・ミニレポートテーマ：災害に関わる計画 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：共同研究論文（たたき台）の作成（2） 共同研究論文の各章節項の概要をまとめたたたき台を作成、論文の概要について報告し、全体で討議します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・実務経験を踏まえながら説明します。

	② 予習 (180分) - 各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 - ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 - グループごとに共同研究の途中経過をレジュメにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジュメを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習 (60分) - 輪読した文献について、レジュメをもとに再読しておく。 - 共同研究論文 (たたき台) で受けた指摘をもとに修正、更新しておく。
13	① 授業テーマと概要 - ミニレポートテーマ：災害と政治 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 - 共同研究テーマ：共同研究論文 (たたき台) の作成 (3) 共同研究論文の各章節項の概要をまとめたたたき台を作成、論文の概要について報告し、全体で討議します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 - 実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習 (180分) - 各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 - ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 - グループごとに共同研究の途中経過をレジュメにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジュメを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習 (60分) - 輪読した文献について、レジュメをもとに再読しておく。 - 共同研究論文 (たたき台) で受けた指摘をもとに修正、更新しておく。※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。
14	① 授業テーマと概要 - 文献講読テーマ：研究論文を読んでみる (12) 各グループが共同研究で参考した文献のうち、先行研究についてレジュメにまとめ輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 - ミニレポートテーマ：災害とリーダーシップ 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 - 共同研究テーマ：共同研究最終発表会の準備 共同研究最終発表会で用いるパワーポイントの内容、発表の役割分担等についての検討 (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 - 実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習 (180分) - 各グループが提示した研究論文を予め読んでおく※1 - ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 - グループごとに共同研究の途中経過をレジュメにまとめておく。 ※1 担当者は、上記研究論文についてのレジュメを作成する。 ※2 ミニ・レポートの担当者は、テーマについてレポートを作成する。 ③ 復習 (60分) - 輪読した文献について、レジュメをもとに再読しておく。 - 共同研究論文 (たたき台) で受けた指摘をもとに修正、更新しておく。
15	① 授業テーマと概要 - 共同研究テーマ：最終発表会 これまで各グループが実施してきた共同研究の内容と成果についてのプレゼンと質疑を行います (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 - 実務経験を踏まえながら説明します。 ② 予習 (120分) - 共同研究発表会のパワーポイントと配布資料を作成しておく。 ③ 復習 (120分) - 共同研究発表で受けた指摘を共同研究論文に反映し、共同研究論文を完成させる。
関連科目	■総合科目 政治学1 (RMGT1139)、政治学2 (RMGT1140)、社会学1 (RMGT1133)、社会学2 (RMGT1134)、経済学1 (RMGT1137)、経済学2 (RMGT1138) ■専門基幹科目 ロジスティクス論 (RMGT2306)、行政法と行政過程 I (RMGT2321)、行政法と行政過程

	Ⅱ（RMGT2322）、地方自治と法（RMGT2361）、企業取引と法（RMGT2351）、企業組織と法（RMGT2352）、企業統治と法（RMGT2353） ■専門展開科目（共通領域科目） 社会調査法（RMGT3301）、財政学（RMGT3305） ■専門展開科目（災害マネジメント領域） 災害と法（RMGT3401）、災害対策論（RMGT3501）、災害情報論（RMGT3502）、自然災害論（RMGT3503）、大規模事故論（RMGT3504）、地域防災論（RMGT3505）、災害史（RMGT3506）、復旧・復興論（RMGT3511）
教科書	■研究の方法論に関する教材 ・伊藤修一郎、2011年『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会。 ・苅谷剛彦、2002年『知的複眼思考法 誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社。 ■災害対策に関する教材 ・秋吉 貴雄、2017年『入門 公共政策学 社会問題を解決する「新しい知」』中央公論社。 ・浦野 正樹・吉井 博明・大矢根 淳・田中 淳編、2007年『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』弘文堂。 ・大石久和、2012年『国土と日本人 災害大国の生き方』中央公論社。 ・熊本日日新聞社編集局、2016年『熊本地震 連鎖の衝撃』熊本日日新聞社。 ・永松伸吾、2008年『減災政策論入門 [シリーズ災害と社会 第4巻]』弘文堂。
参考書・参考URL	参考資料や参考書は適宜授業で提示する。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜4限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室またはZoom等で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%：パブリックセキュリティ10%：グローバルセキュリティ10%：情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

